

公益財団法人

京都府国際センター

Kyoto Prefectural International Center

NEWS

Vol. 89

2019年 秋号

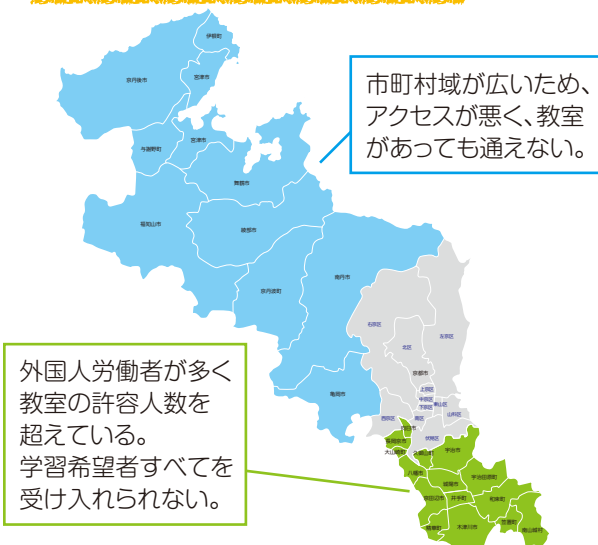
「地域日本語教育」に関する実態調査 ～ご協力をお願いします～

府内の日本語教室の現状

外国人住民の日本語学習の場が不足

日本語教室がある市町村数

26 市町村のうち **15 市町**



ボランティアによる教室の運営

高齢化の進む地域では教室が閉鎖。

財源や活動場所の確保が容易ではない。

「日本語教育の推進に関する法律」

2019年6月に公布・施行

外国人住民への日本語教育＝**国や自治体の責務**
公的な住民サービスとしての日本語教育へ



国の施策を踏まえ、京都府では「地域日本語教育の総合的な体制づくり」に向け、「地域日本語教育」に関する実態調査を行っています。当センターでは、この事業を受託しアンケートとヒアリングによる調査を外国人住民の方を始め関係者の皆様に実施しています。

調査結果は、今後、外国人住民の方々の日本語学習や生活支援を進めるための基礎データとして活用されます。

皆さんの周りにおられる外国人住民の方に、この調査への協力について周知いただくと幸いです。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

今後とも、関係の皆さんとともに、府域全般における多文化共生(※)の形成に向けた取組の充実に努めてまいります。

※多文化共生とは…

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと

(「多文化共生の推進に関する研究会報告書」2006年3月総務省)

こちらのURLからご回答いただけます ➡ <https://www.kpic.or.jp/nihongo/chousa.html>

(英語、中国語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、フィリピン語、インドネシア語、ネパール語、タイ語、フランス語、日本語の10言語)

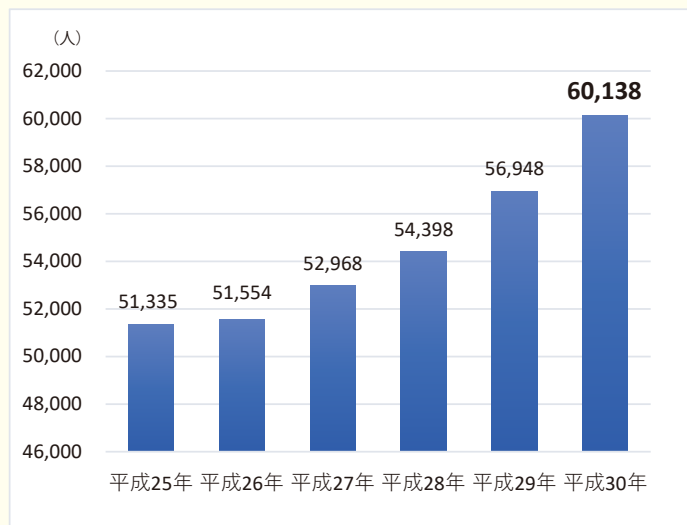


目次

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| ■「地域日本語教育」に関する実態調査へのご協力のお願い……………1 | ■災害時外国人サポーター講座……………3 |
| ■京都府の国際化の現状……………2 | ■ノートルダム大聖堂再建への応援メッセージ……………3 |
| ■外国人住民向け生活相談窓口を開設しました……………3 | ■国際交流員退任のご挨拶……………4 |

京都府の国際化の現状

1. 外国人住民数は6万人台へ 162の国と地域



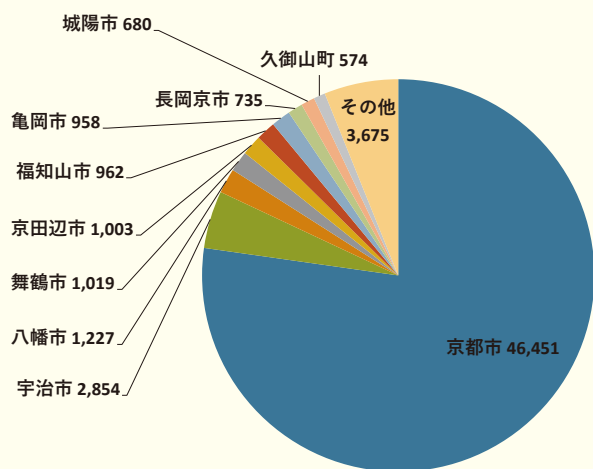
外国人住民数の推移

京都府内に住む外国人住民の数は、昨年6万人を超え、全国で11番目に多い数字です。

京都府の総人口は平成16年の2,648,245人をピークに減少傾向に転じている一方、外国人住民の数は、平成26年以降、アジア圏からの人々を中心に毎年増加を続けています。

今後、留学生や外国人労働者のさらなる増加が予想され、多文化共生社会の形成へ向けた地域づくりが求められています。

2. 京都市に約8割が集住、 その他は広域に散在



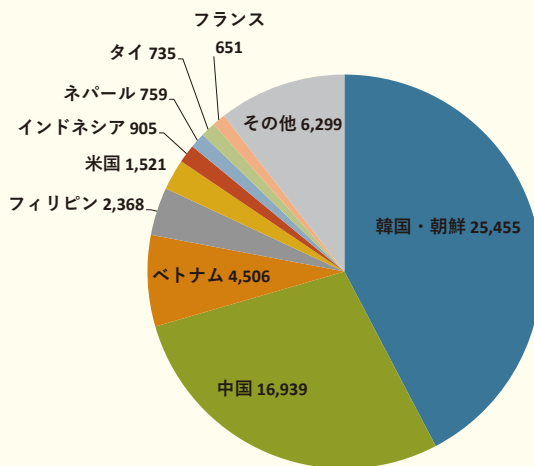
市町村別外国人住民数

外国人住民は、京都市に集住し、大学のある宇治市や京田辺市、工場が集積している八幡市、舞鶴市、福知山市等を中心に、府内各地域に広く散らばって居住していることが京都府の特徴です。

● 京都府の外国人住民数

京都府の推計人口: 2,590,658人 (平成31年1月1日現在)
うち外国人住民数: 60,138人 (平成30年12月31日現在)
外国人住民の割合: 約2.3%

3. アジア圏の外国人住民が急増 ベトナム15倍、ネパール6倍に

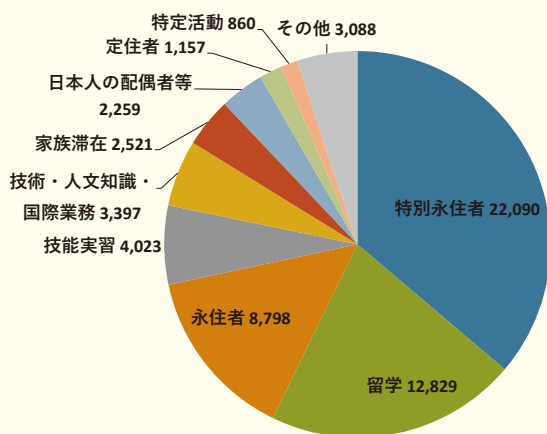


国籍別外国人住民数

近年、中国、ベトナム、インドネシア、ネパール、タイなどアジア圏からの外国人住民の増加が目立っています。

特に政府が受け入れ拡大を進めているベトナム、ネパールはこの10年で大幅に増加しています。

4. 定住化と就労者の増加 永住者1.5倍、技能実習5倍に



在留資格別外国人住民数

「特別永住者」は少子高齢化や日本への帰化等により減少傾向にある一方、「永住者」がこの10年で1.5倍に増えています。アジア諸国の発展や積極的な招致の推進に伴い、「留学」も増加傾向にあります。

就労者のうち「技能実習」が約10年で5倍に増えています。平成31年4月、改正出入国管理及び難民認定法が施行され、新たな在留資格である「特定技能※」が創設されました。これにより府内の外国人労働者の数がさらに増加することが予想されています。

※特定技能

介護業、外食業、建設業、農業、宿泊業など、国内での人手不足が深刻な14業種の労働力確保のために設けられた在留資格。

外国人住民向け生活相談窓口を開設しました

京都府国際センターでは、今後さらに増加が見込まれる府内の外国人住民の生活を支援するため、相談窓口を開設しました。在留手続、雇用、医療、福祉、教育など、日々の生活に関する情報提供、相談を行っています。

電話・来所どちらにも対応していますので、お気軽にご相談ください。

●受付時間 10:00～17:00

(第2・第4火曜日、祝日、年末年始を除く)

●専用ダイヤル 075-343-9666

●対応言語 英語、中国語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語 (電話による三者間通話)

※上記以外の言語に対応した自動翻訳機も用意しています。



相談無料

京都市内にお住まいの方は…

京都市国際交流協会へお問い合わせください。

●TEL 075-752-3511 ●受付時間 9:00～17:00 (原則月曜日休み)

災害時外国人サポーター講座

災害時外国人サポーターとは、災害が起こった際、災害弱者となり得る外国人住民に届ける情報を翻訳してもらう、いわば災害時の外国人住民への情報発信における縁の下の力持ち的存在です。多くの方にサポーターの存在を知ってもらうことを目的に、6月1日(土)にメルパルク京都で講座を開催し、23名の方に参加いただきました。



講座は2部制で行い、第1部では京都地方気象台から京都府で起こり得る災害についてお話しいただき、第2部は京都府の外国人住民の現状を知ってもらう内容

としました。最後に京都府国際センター登録外国人支援サポーターの具体的な役割についてお話しし、結果として講座後に多くの参加者にサポーター登録をしていただきました。当センターでは、今後も定期的に講座を開催する予定です。詳細、お申し込みにつきましては下記にてご確認ください。サポーター活動や登録に関心のある多くの方のご参加、心よりお待ちしております。

*講座について

➔ <https://www.kpic.or.jp/saigai/kensyu.html>



*災害時外国人サポーターについて

➔ <https://www.kpic.or.jp/saigai/appli.html>



ノートルダム大聖堂再建へ 京都からフランスへ応援メッセージ

京都からフランスへ、思いよ届け ～ノートルダム大聖堂の再建への祈りを込めて～

4月15日にフランスを代表する文化遺産であるノートルダム大聖堂において、大規模な火災が発生し、尖塔と屋根の一部が焼失しました。

京都府はノートルダム大聖堂の再建への祈りを込めて、フランスへの応援ビデオメッセージを作成しました。この応援ビデオメッセージは、2019年6月27日に入洛されたマクロン大統領に、西脇知事からDVDの形で直接、手渡すことが出来ました。

現在完成した動画はユーチューブに載っています。日本人の思いがフランスまで届くように是非拡散をお願いいたします!

動画のリンクはこちら

➔ <https://www.youtube.com/watch?v=wT6wyUvU3QA>



京都府国際交流員退任のご挨拶

またね、京都!

マヤ・ホール

みなさんこんにちは! いよいよ京都府国際交流員としての時間の終わりが迫ってきて寂しくなってきました。この二年間の間に数え切れないほどの素晴らしい思い出ができ、いろんな人とも出会いました。大変感謝しています。

京都での活動の中で特に印象に残ることがたくさんあります。京都府国際課と京都府国際センターを通じて、様々な地域レベルの姉妹都市関係事業やイベントに関わることができました。また、関西文化学術研究都市関連の業務にも関わり、持続的可能性やスマートシティーの分野に触れることができ、それらの分野への自分の興味や知識を高めることができました。世界中から海外の訪問団をお出迎えし、案内や通訳もしました。一方、京都の府民向けの防災、交通安全、気象関係業務の手伝いもしました。京都府の留学生や一般の府民への支援も行いました。京都府国際センターを通して、様々な国際理解講座を実施できたことは特にありがたいです。この理解講座は、京都府の多様な方々と交流を持ち、話し合う機会になりました。例えば、エディンバラ又はスコットランドの文化、歴史、政治について、また、タマネギの皮を使う伝統的なヨーロッパの自然の卵の染め方を試しながら、イースターの習慣などを紹介しました。他にも、「本当は怖いグリム童話」と日本の昔話や神話との共通点の紹介、シルエットのキャンドルグラス作りをしました。一番最後に行った異文化コミュニケーションをテーマとしたワークショップでは、日本と世界の様々な文化や考え方の違い、言語

以外の異文化コミュニケーションの取り方など、人類学的な視点からのプレゼンテーションを行い、私達はどのようにその壁を超え、最もオープンな社会を育てていく目的に向かって、懸け橋になるべきかについて語りました。

もちろん、京都市に住むのも最高でしたが、この国際交流員の仕事のお陰で、美しい京都府の様々な地域を見る機会もたくさんありました。世界中で有名な京都市だけが特別ではなく、京都府全体でも素晴らしい地域を見ることができ、とても感謝しています。

八月からは、ベルリンで公共政策(きっかけはこの国際交流員の仕事です!)の勉強を始める予定で今準備中ですが、感謝の気持ちが心からあふれています。いつも応援してくれたり、一緒に笑ったりしてくれた京都府国際課と京都府国際センターの皆さん、そして熱心に交流してくれた京都府民のみなさん、ほんとうにありがとうございました! この国際交流員としての二年間は、大変勉強になり、夢のように素晴らしかったです。一生忘れません。またこんど~!



※8月から新任の国際交流員「アダム・フランクリン」さんが着任されています。

京都府国際センターからのお知らせ

●災害時外国人サポーター講座

日 時: 2019年11月16日(土) 13:30~16:00

場 所: 京都経済センター

内 容: 災害時外国人支援の言葉

『通訳・翻訳体験』(演習とロールプレイ)

参加費: 無料

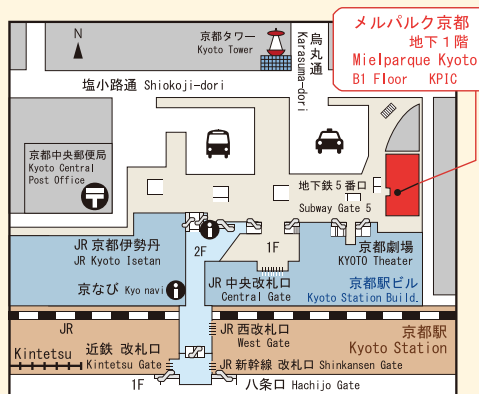
詳細➡ <https://www.kpic.or.jp/saigai/kensyu.html>



~賛助会員を募集しています~

センターの持続可能な運営のため、会員への加入・継続についてよろしく願いいたします。

➡ <https://www.kpic.or.jp/about/sanjo.html>



公益財団法人京都府国際センター

〒600-8216 京都市下京区東塩小路町676-13 メルパルク京都B1F (JR京都駅前 北口東側(京都劇場側))

Tel : 075-342-5000

Fax : 075-342-5050 E-mail: main@kpic.or.jp

<http://www.kpic.or.jp/>

facebook <http://www.facebook.com/kpic.kyoto>

開館時間 / 午前10時~午後6時

休館日 / 毎月第2・第4火曜日、祝日、年末年始(12/29 ~ 1/3)

公益財団法人京都府国際センター NEWS Autumn 2019 秋号 第89号

編集・発行 / 公益財団法人 京都府国際センター Kyoto Prefectural International Center

